

事務事業名		図書館読書推進事業			☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業								
政策体系	政策名	0:6:豊かな心を育む人づくりの推進			事業期間		予算科目								
	施策名	2:5:生涯学習の推進					会計	款	項	目	事業				
	基本事業名	0:2:市民の学習活動への支援			☐ 単年度のみ		01	10	05	05	06				
所 属	根拠法令	図書館法			☐ 単年度繰返 (開始 昭和43 年度～)										
	部課名	企画政策部市立図書館			☐ 期間限定複数年度 【計画期間】										
	係 名	図書館	電話 内線	26-4478 450	年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入										
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)											全体計画(※期間限定複数年度のみ)				
読書活動の推進を図り、図書に親しむ環境・機会を提供する事業。 主な業務は次の通り。 ・読書感想文、多読者表彰読書チャンプの実施 ・おはなしパレード、お楽しみ親子劇場、手づくり絵本教室の開催 ・各種図書展の開催 ・読書ボランティアの実演機会の提供 ・ブックスタート事業 事業費は、報償費、消耗品費等に支出される。											総 投 入 量 (千 円)	事 業 費 内 訳	国庫支出金		
													都道府県支出金		
													地方債		
													その他		
													一般財源		
													事業費計 (A)		0
											人 件 費	正規職員従事人数			
												延べ業務時間			
												人件費計 (B)		0	
												トータルコスト(A)+(B)		0	

1 現状把握の部 (DO)

(1) 事務事業の目的と指標										
① 手段 (主な活動) 前年度実績 (前年度に行った主な活動) 上記の事業概要と同様。 今年度計画 (今年度に計画している主な活動) 項目的には、前年度を踏襲するが、新規事業として、「大人と子どものための読み聞かせ」事業、「図書館利用講座」等を実施し、読書推進事業の充実を図る。			⑤ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)							
			名称						単位	
			ア		事業開催回数				回	
			イ		事業参加者数				人	
			ウ		図書展開催日数				日	
② 対象 (誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等 市民			⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標)							
			名称						単位	
			カ		市の人口				人	
			キ							
			ク							
③ 意図 (この事業によって、対象をどう変えるのか) 図書に親しむ機会が提供され読書活動と図書館利用の普及が図られる。			⑦ 成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)							
			名称						単位	
			サ		読書感想文、感想画コンクール応募作品数				作品	
			シ		おはなしパレード、親子劇場等参加者数				人	
			ス		展示期間中の貸出冊数				冊	
④ 結果 (基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか) 学習意欲の啓発・向上がなされる。										
(2) 総事業費・指標等の推移										
			年度	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (実績)	21年度 (実績)	22年度 (実績)	
投入量	事業費	国庫支出金	千 円	0	0	0	0	0	0	0
		都道府県支出金	千 円	0	200	267	267	283	347	
		地方債	千 円	0	0	0	0	0	0	
		その他	千 円	0	0	0	0	0	0	
		一般財源	千 円	521	646	603	590	411	229	
		事業費計 (A)	千 円	521	846	870	857	694	576	
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1	
		延べ業務時間	時 間	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	
		人件費計 (B)	千 円	7,200	7,200	7,200	7,200	7,200	7,200	
		トータルコスト(A)+(B)	千 円	7,721	8,046	8,070	8,057	7,894	7,776	
⑤活動指標	ア	回	43	62	75	30	49	50		
	イ	人	10,538	17,654	26,117	3502	16,180	9,239		
	ウ	日	122	165	154	83	131	50		
⑥対象指標	カ	人	43,209	42,575	42,158	41,684	41,334	40,537		
	キ									
	ク									
⑦成果指標	サ	作品	154	163	235	148	152	143		
	シ	人	482	1,475	938	794	1,068	1,197		
	ス	冊	-	41,071	30,196	9,959	74,913	28,353		

事務事業ID	0879	事務事業名	図書館読書推進事業
(3) 事務事業の環境変化・住民意見等			
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 「読書感想文コンクール」は平成21年で41回を迎えるため、開始年度は40年前の昭和43年頃であると推定される。「お話パレード」「各種図書展」は平成10年代、「ブックスタート」は平成17年より行われている。いずれの事業も読書活動の推進の一環として開始された。			
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？ 利用者ニーズの多様化、専門化、高度化が進み、それぞれに対応した情報提供が求められている。			
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？ おはなしパレード、親子劇場等の参加者からは好評を博しており、より一層の充実を求めている。			

2 評価の部(SEE) *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 各種事業を遂行することにより図書に親しむ機会が提供され、読書活動の活性化と図書館利用の促進が図られる観点から、生涯学習の推進につながり、上位施策と結びつく。 各種事業の体験者が新たな図書館利用者となる事例も見受けられることから、読書推進の役割を果たしている。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 現状では民間において同様の事業を行う機関は見当たらず、公的関与は適切である。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 市立図書館として対象及び意図ともに現状で適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 活動を充実させることにより、より一層成果が向上されるので、向上の余地がある。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒ [その内容] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 代替が存在しない。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある → (具体的な手段, 事務事業) ☒ 統廃合・連携ができる ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 三陸公民館でも「お話し会」を実施しているが、地域的な側面から、図書館で開催することは妥当。ただし、読み聞かせグループの連携など、内容を充実させる観点からは、連携は有効と考える。 ☐ 他に手段がない ⇒ [理由]
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 事業費は読書コンクール選考委員の報償費、ブックスタートの本の購入費等であり、読書ボランティア等の協力を得て事業を行っているのが現状なので、これ以上の事業費削減は困難である。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 職員は実演者等のスケジュール調整を主に担当しており、これ以上の削減は難しい。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていない不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 「読書感想文コンクール」は対象を市民、「お話しパレード」「ブックスタート」は主に乳幼児を対象としているが、広報で周知のうえ対象制限を設けていないこと、7ヶ月検診対象乳児全員を対象としていることから、妥当と考える。

事務事業ID	0879	事務事業名	図書館読書推進事業
--------	------	-------	-----------

3 評価結果の総括と今後の方向性（次年度計画と予算への反映）(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果（2枚目と整合を図ること） <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括（振り返り、反省点） 読み聞かせ会、ブックスタート等の幼年期からの読書習慣形成のための催事を行い、参加者からは概ね好評を得ている。さらに、各種メディアを活用した広報宣伝を強めるとともに、参加者ニーズを把握したうえでの運営が必要である。開催時間帯、実施内容の見直しなど、参加しやすい環境を作ることにより、参加人数の増加が見込める。また、読み聞かせボランティア等の育成の面からは、実演の技術向上を図ることにより、参加者の本に触れる機会をアピールすることができる。									
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性（改革改善案）・・・複数選択可（ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可） ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善（ ☒ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☐ 公平性改善 ） （上記方向性に対する具体的な内容） 催事に関する広報の強化と、参加者が求めている内容を提供することにより、より多くの参加が見込めるとともに、読書意識の高揚が望める。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 （廃止・休止の場合は記入不要） <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上		●																				
	維持			×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 催事への参加者の増加は、市民への周知を強化することで、解決することと考える。																							

（職 名） ※原則として施策の主管課長

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者	図書館長
-------	------

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

- ① 記述水準（1次評価の記述内容を読んだ段階で選択）
- ☐ 記述不足でわかりにくい
☐ 一部記述不足のところがある
☒ 記述は十分なされている
- ② 評価の客観性水準（2次評価を行った後に総合的に判断して選択）
- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている（事務事業の問題点、課題が認識されていない）
☐ 一部に客観性を欠いたところがある
☒ 客観的な評価となっている（事務事業の問題点、課題が認識されている）

(2) 2次評価者としての評価結果

- | | | |
|---------|--|---|
| ① 目的妥当性 | ☒ 適切 | ☐ 見直し余地あり |
| ② 有効性 | ☐ 適切 | ☒ 見直し余地あり |
| ③ 効率性 | ☐ 適切 | ☒ 見直し余地あり |
| ④ 公平性 | ☒ 適切 | ☐ 見直し余地あり |

(3) 評価結果の根拠と理由

読み聞かせ会、ブックスタート等の幼年期からの読書習慣形成のための催事を行い、参加者からは概ね好評を得ている。さらに、各種メディアを活用した広報宣伝を強めるとともに、参加者ニーズを把握したうえでの運営が必要である。開催時間帯、実施内容の見直しなど、参加しやすい環境を作ることにより、参加人数の増加が見込める。また、読み聞かせボランティア等の育成の面からは、実演の技術向上を図ることにより、参加者の本に触れる機会をアピールすることができる。

(4) 次年度の方向性（改革改善案）・・・複数選択可（ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可）

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持
 事業のやり方改善（ ☒ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☐ 公平性改善 ）

（上記方向性に対する具体的な内容）

各種メディアを活用した広報宣伝を強めるとともに、開催時間帯、実施内容の見直しなど、参加しやすい環境を作ること努める。
 また、読み聞かせボランティア等の育成の面からは、実演の技術向上を図ることにより、参加者の本に触れる機会をアピールする。

(5) 改革・改善による期待成果

左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。
 （廃止・休止の場合は記入不要）

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上		●	
	維持			×
	低下		×	×

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項